

(9) 『道行触』(函架番号:五〇二一七四)。国書データベースにて画像閲覧可能(<https://doi.org/10.20730/100290249>)。

(10) 「安芸築山文書」(『九州』五三九四号)。本文書は従来永和三年に比定されているが、『道ゆきぶり』の記述にかけて永和四年とすべきであろう。

(11) 永和四年に善導寺を経て征西府の拠点肥後菊池に迫った探題勢であるが、託麻原の戦いで敗北を喫し、戦線は耳納連山一帯に移る。田原氏能も一連の合戦に従事し、翌康暦元年五月には草野城攻略の軍功を称える足利義満御判教書が与えられている(豊後草野文書)『九州』五五四三号。「大友家文書録一」『大分県史料』三一、二二二号も参照。史料一・二の年次を康暦元年の合戦と関連づけることも可能であるが、その場合了俊は閏四月十四日の細川頼之失脚を知らずに五月八日付で挙状(史料二)を書いたことになる。政変の報は速やかに了俊のもとにもたらされたと考えられるので、史料一・二は康暦の政変以前の発給と考えておきたい。

(12) 「豊後大分大学附属図書館文書」(『九州』五四七三三号)。

(13) 「豊後入江文書」(『九州』五五八一号)。

(14) 「草野文書」下巻一七号(『大分県史料』一一三)。

(15) 「豊後入江文書」(『九州』六七五三三三)。

(16) 「碩田叢史」三。「大友家文書録」に本文書の断簡が収録される(『大分県史料』三一、二〇五号)。

(17) 惣地頭―小地頭制については、清水亮『鎌倉幕府御家人制の政治史的研究』(校倉書房、二〇〇七年)第五・六章を参照。

【付記】本稿は科学研究費補助金(23K12273・24K00113)および本センター「中世花押の編年研究」プロジェクトの成果である。

史料編纂所「二〇二五年カレンダー」のご案内

このたび、史料編纂所の二〇二五年カレンダーが完成しました。今年「誓約・約束」をテーマに本所所蔵の中世史料を紹介しました。表紙に選んだのは、慶長四年(一五九九)に書かれた起請文(神仏への誓約書)です。「庄内の乱」と呼ばれる島津氏の内紛に際して、当主夫妻に仕える侍女たちが二心なきことを誓ったものです。署名の下に捺された血判の跡が緊迫した様子を生々しく伝えていきます。裏表紙に選んだのは、若き日の武田信玄(晴信)が記した起請文です。小姓に言い寄ったことを否定する内容で、戦国武将の私生活を語る史料として知られています。

このほか本カレンダーには、さまざまな内容の誓約や、誓約に関する人々の意識が読みとれる史料を掲載しました。果たしてその誓約は本当だったのか、嘘だったのか、約束は守られたのか、破られたのか――などと想像をめぐらしながらご覧いただけると、よりいっそうお楽しみにいただけるのではないかと思います。

体裁はA4判中綴じ(上下見開きで縦A3判)のカラー印刷で、解説二頁を含む一六頁仕立てです。一部五一〇円(税込)にて、東京大学コミュニケーションセンター(史料編纂所の向かい)で販売いたします。

(広報委員・堀川康史)

2025 CALENDAR



島津氏内紛の起請文(島津氏家文書) / A blood seal (Shibubiki) on a historical document from the Shimazu family.

東京大学史料編纂所
HISTORIOGRAPHICAL INSTITUTE, The University of Tokyo